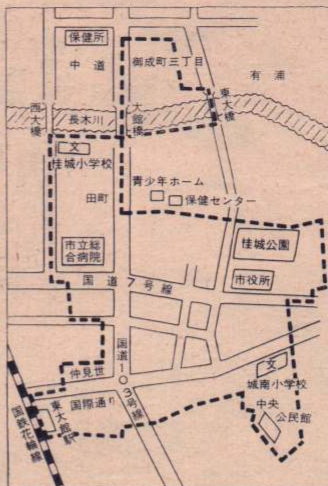


有害環境から少年を守る

環境浄化重点地区を設定

少年を有害環境から守り、非行化を防止するため、当市が五十六年度の「少年を守護する環境浄化推進重点地区」に指定されました。そして、地域住民を主体にした「少年を守る環境浄化推進協議会」が組織され、地域の実情にあった環境浄化活動を繰り広げていくことにしています。市民の皆さんのご協力をお願いします。



環境浄化重点地区(点線内)

少年の補導状況は

十五年の少年(十九歳以下)の補導状況は、千五百八十三人で、昨年比で減少しています。が、逆に窃盗や暴行などの犯罪少年が、大幅に増加しており非行の悪質化、低年齢化が目立ってきています。

協議会の活動は

そこで少年の非行化の第一歩となる有害環境を市内からなくすため、「少年を守る環境浄化推進協議会」では、少年非行の

実施は遅く非行防止活動を行う推進委員を二十三人の方に委嘱しました。推進委員は、警察署と連絡をとりながらつぎのような活動をします。

重点地区内の書店、雑誌自動販売機などの有害雑誌の販売状況、有害広告物、たまり場、衛生器具自動販売機等の有害環境の実態は

関係機関へ適切な施策の要請や、業者への自主規制の申し入れなど

障害者福祉都市の指定

当市は、厚生省から障害者福祉都市の指定を受け、今年度から二年間、障害者福祉都市推進事業を実施します。同事業は、国、県から補助金を受けて、障害者の福祉サビ

皆さんの協力を
少年を非行から守るためには推進委員の活動だけではなく、市民の皆さんの協力が必要で、少年に有害であると思われる場所や広告物などがありま

たら協議会の事務局へご連絡ください。
「少年を守る」
環境浄化推進協議会事務局
大館警察署少年係
42-4111
市役所社会教育課内
高清水清菜さん
49-3111

ス事業や心身障害者療育事業、身障者の生活環境整備事業などを実施するものです。市では、各種団体などで推進協議会を設置し、具体的な事業を決定しま



「憲法と私たちの暮らし」むの氏の憲法記念講演

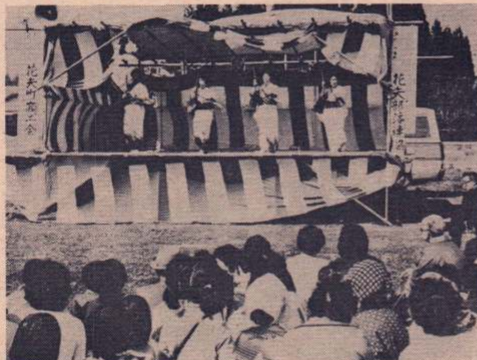


う散歩



450人が健脚を競った全県ロードレース大会

身近なところで花見を……花矢地区部落対抗の芸能大会



本格的な田植期に入りました。昨年のような悪夢は再び繰返さない、そんな決意も新たに、もてる技術のすべてを投入しましょう

い位になりましたが、その背景には栄養の不足が大部分でしょう。たして人間は見かけだけでありません。心と体のバランスが崩れようとする風潮が、あまりにも強すぎるのではないだろうか。豊かな心、すなわち「喜怒哀楽、豊かな情緒」を忘れてしまった健康は、豊かな心をつくる、体調(健康)を整える栄養も同じように大切なことを再認識したいものです。



市長のひとこと

文化の時代の先どり
八〇年代は不確実、不透明の時代だといわれました。はたしてそうでしょうか。少なくとも、①有資源思想、節約の方向が一層求められる②高齢化、高学歴社会が進む③その結果として高審慎化社会が進むことになるだろうと考えられます。私たちは、この方向を多面的に活用することになるでしょう。高学歴、高年齢すなわち豊富な知識と経験を生かし、貯えられた資金を基に、節約型指向の社会をいかに作るならば、従来の「少モデル(画一型)大量生産(使い捨て)」時代から「多モデル(知識型)少量生産(選択)時代」つまり文化の時代へと変革する方向をとることは間違いないではないでしょうか。先どりするようには、私たちがその方向に時代を育てる責任を自覚したいものです。

心 の 栄 養 も
世界一の長寿国になり、体格も見劣りしない
それは体でもなく、知識以外の、人として必要なものすべてというようになります。そして、それは与えられるものでもなければ、教えられるだけのものでもない、家庭や社会、親や大人たち、そして真の友情と交際の中から体得するもの、それが心の栄養はないでしょうか。次代を担う立派な子供を育てる責任を自覚したいものです。

胃腸健活部



幼児期の栄養

よく飛びまわり、すくすく育つ幼児期には質、量とも大人とは異なった食べ物の与え方が必要です。

血となり肉となる上質のタンパク質、体の複雑な生理機能をコントロールするため、ビタミン類を豊富に含んだ野菜、果物をバランスよく与えることが大切です。

鉄分やカルシウムも幼児には不足しがちです。幼児期の骨折が増えていますので、骨を強くするために一日一本の牛乳と卵黄やリ、小魚を多くとりましょう。そして、多くの種類の食品をとることも大事です。一週間

- 1日のエネルギー必要量 1,500カロリー
- 1日の脂肪 カロリー中の25~30%
- 1日のタンパク質 50グラム



に七十品目以上とっているかをチェックしてみよう。
また、幼児期は胃が小さく、必要な食料を三度の食事ですることができません。その分をおやつで補うこととなりますが、甘味のおやつに片寄らずに牛乳、乳製品、果物などを与えましょう。
〈例〉五歳の女児で、身長百十センチメートルの場合